

令和元年度日本小児外科学会社員総会議事録

日 時：令和元年5月22日（水）14：30～17：30

場 所：萃香園ホテル2F 鶴の間（東・中央）

出席者：開会時、出席者数 226名

委任出席者数 65名 計291名

定刻通り越永従道理事長が開会宣言を行なった。定款第26条に定められた成立定足数163名（評議員325名の過半数）を充たしており、本社員総会の成立が確認された。尚、名誉会員4名、特別会員3名のご出席をいただいていることが報告された。

続いて注意事項として、2年連続して社員総会に欠席すると次期評議員選挙の被選挙権を有しない旨の説明があり、閉会・退席時に出席票を提出するよう指示があった。

議長の選出：定款第24条により、越永従道理事長が議長に選出された。

議事録署名人の選出：議長により、田中秀明（福島県立医科大学附属病院小児外科）、森井真也子（秋田大学医学部附属病院小児外科）両評議員が推薦され選出された。

次に議長より、追加議事案件の文書提出の締切時刻を14時45分との説明があった。

また、次々期会長および理事・監事への立候補について、定款施行細則により定められた期日までに届出のあった候補者名が手許資料として配布してあること、既に締切日を過ぎているので本社員総会会場で立候補はできないことが説明された。

続いて、藤野明浩庶務委員長より、平成30年度物故会員5名（玉木芳郎先生、東孝先生、柴田正樹先生、平松聖史先生、高橋英世先生）の報告があり、全員で黙祷をささげた。

議 事

1. 名誉会員、特別会員推戴に関する件

越永理事長より、定款第6条に基づき、猪股裕紀洋先生と岩中督先生と上野滋先生を名誉会員に、飯田則利先生と八木誠先生と吉田英生先生を特別会員に推戴したい旨の発言があり、続いて、推戴理由として各候補者の略歴および本学会への功績についての説明があり、承認された。

2. 2018（平成30）年度庶務報告に関する件

藤野庶務委員長より、会員動向について以下の報告があり、承認された。

正会員2,102名（新入会：128名、退会：61名、資格喪失：47名）、名誉会員54名（国内：47名、海外：7名）、特別会員69名（国内：68名、海外：1名）

3. 2018（平成30）年度事業報告承認の件

各種委員会担当理事より、以下のように報告があり承認された。

（1）機関誌委員会（奥山宏臣担当理事）

奥山担当理事より以下の報告があった。

- 1) 機関誌投稿論文の状況について
 - 2) 機関誌論文の査読辞退状況
 - 3) 論文へのアクセス状況
 - 4) 第54巻優秀論文候補の選定について
 - 5) 機関誌に関する諸問題の検討について
- (2) 国際・広報委員会（越永従道担当理事）
越永担当理事より以下の報告があった。
- 1) ホームページの更新報告について
 - 2) ガイドラインに対するパブリックコメントなどの依頼に対する対応について
 - 3) ホームページ改定について
 - 4) 国際活動について
- (3) 保険診療委員会（廣部誠一担当理事）
廣部担当理事より以下の報告があった。
- 1) 令和2年度診療報酬改定について
- (4) 教育委員会（山高篤行担当理事）
山高担当理事より以下の報告があった。
- 1) 卒後教育セミナーについて
 - 2) 内視鏡手術セミナーについて
 - 3) 小児外科用語関連について
 - 4) 卒前教育アンケートについて
 - 5) セミナー関連について
- (5) 悪性腫瘍委員会（田尻達郎担当理事）
田尻担当理事より以下の報告があった。
- 1) 小児の外科的悪性腫瘍、2017年次登録症例の全国集計結果について
 - 2) 2006年～2010年登録症例の追跡調査について
 - 3) 新規学会登録システムの構築、運用について
- (6) 学術・先進医療検討委員会（臼井規朗担当理事）
臼井担当理事より以下の報告があった。
- 1) ビデオライブラリーの作成について
 - 2) 新生児外科全国調査に関する報告について
 - 3) アンケート調査、及び、診療指針、ガイドラインの審査依頼について
 - 4) 先進医療及び学術的情報収集および会員への情報提供について
 - 5) 学術集会における「学会企画演題」の企画案作成について
 - 6) HPの「小児外科で治療する病気」の改訂について
- (7) 倫理・安全管理委員会（野田卓男担当理事）
野田担当理事より以下の報告があった。
- 1) 医療倫理講習会について
 - 2) 感染対策講習会について

- 3) 倫理・安全管理委員会便りについて
- (8) データベース委員会 (山高篤行担当理事)
山高担当理事より以下の報告があった。
- 1) NCD-小児外科領域会議について
 - 2) 学会保有のデータの学術利用についての会員周知について
- (9) 小児救急検討委員会 (奥山宏臣担当理事)
奥山担当理事より以下の報告があった。
- 1) PALS講習会について
 - 2) 小児救急セミナーについて
 - 3) 災害対策マニュアルの作成について
 - 4) 平成30年度小児救急連絡協議会について
- (10) トランジション検討委員会 (奥山宏臣担当理事)
奥山担当理事より以下の報告があった。
- 1) 移行期に関する問題点および今後の展望について
- (11) ワークライフバランス検討委員会 (廣部誠一担当理事)
廣部担当理事より以下の報告があった。
- 1) 学術集会における特別企画について
 - 2) 学会ホームページ上での広報について
 - 3) ワークライフバランスについての啓蒙活動について
 - 4) 外部団体とのネットワークづくり、情報交換について
 - 5) 小児外科学会におけるクォータ制導入と女性評議員委嘱について
- (12) 規約委員会 (金森 豊担当理事)
金森担当理事より以下の報告があった。
- 1) 各種委員会規約作成・施行について
 - 2) 専門医制度規則について
 - 3) 理事会内規の整理について
- (13) 研究倫理委員会 (野田卓男担当理事)
野田担当理事より以下の報告があった。
- 1) 学術集会演題応募時の倫理的妥当性の審査について
 - 2) NCDデータ利用研究申請に関する倫理的妥当性の評価について
 - 3) 過去のデータ (アンケート調査など) にもとづいた新たな研究発表に関する倫理的妥当性についての評価について
 - 4) 国内の各施設のIRBの現状調査について
- (14) NCD連絡委員会 (臼井規朗担当理事)
臼井担当理事より以下の報告があった。
- 1) NCD-小児外科領域会議について
 - 2) 2019年度用NCDへの追加・変更要望術式について
 - 3) 術式等メンテナンスについて

- 4) 2019年用NCD小児外科領域テスト入力について
 - 5) NCD自施設データ利用の許可について
 - 6) NCD小児外科領域アニュアルレポートの作成について
 - 7) NCD-Pによる新生児外科全国集計について
 - 8) 症例一括アップロードについて
 - 9) リスクカリキュレータ（医療品質評価）について
 - 10) 小児外科術式検索システムについて
 - 11) Q&A集の更新について
 - 12) Auditとサイトビジットについて
- (15) ガイドライン委員会（金森 豊担当理事）
 金森担当理事より以下の報告があった。
- 1) 小児外科診療に関するガイドライン等の情報提供について
 - 2) 小児外科診療に関連したガイドラインのHP掲載について
 - 3) 学会主導ガイドライン作成について
- (16) 利益相反委員会（米倉竹夫委員長）
 米倉委員長より以下の報告があった。
- 1) 自己申告書の検証について
 - 2) 『学会が保有するデータを用いた臨床調査研究申請』におけるCOIの申告の検証
 - 3) 日本小児外科学会学術集会時のCOIの検証について

4. 理事長報告

越永理事長より以下の報告がなされた。

- (1) 関連団体報告について
- (2) 法人格変更について
- (3) 学術集会および秋季シンポジウムについて
- (4) 臨床研究の推進について
- (5) WEB 会議の導入の成果について
- (6) 女性委嘱評議員について
- (7) 災害対策について
- (8) 漢方製剤（大建中湯）効能追加（公知申請）要望書提出について
- (9) 日本小児期外科系関連学会協議会について

この項は、田口智章評議員（日本小児期外科系関連学会協議会会長）から補足説明があった。

- (10) 総合調整委員会について

この項は、田尻副理事長（総合調整委員会委員長）から補足説明があった。

[質疑応答]

田口智章評議員「ガイドラインについて、今研究班が主導でガイドラインがいくつかできておりますが、だいたい5年ぐらい経つとガイドラインは改定しなければならないというこ

とがあります。実際今までガイドラインを作ってそれを学会に承認してもらおうということが重要でMindsの方も研究班で作ったものが、学会で承認されるとそれが正式なものとして認められて、パブリックコメントをもらって、正式に決定するというプロセスです。研究班は3年ごとで次に採用されるかどうかはわからず、お金が無くなるとガイドラインを作ることもできず、今後学会の方でガイドラインを積極的に維持してもらえるとということであれば、研究班でガイドラインを作ったものが、今度改訂作業が必要な場合に、研究班が潰れていた場合には、学会がそれを面倒見てくれるのかどうかについて、いかがでしょうか。」

越永理事長「まさに先生がおっしゃるところが、研究費で運営している班研究によるガイドラインの問題点であるかと存じます。したがってそういう意味では学会がやはりガイドラインを積極的に策定して、それを更新していくという循環が重要だと考えております。また先ほど金森理事からご説明がありましたけれども、現在は診療ガイドラインを策定しているかどうか、あるいは策定する能力があるかどうか、学会のアクティビティを示す1つの指標になっており、ガイドラインを策定しているということが、1つの学会のステータスにもなりますので、学会としては積極的に取り組んでいきたいと思っている所です。」

田口智章評議員「非常に大事なことだと思いますが、実際いくつか横隔膜ヘルニアとか、ヒルシュ疾患、胆道閉鎖、虫垂炎等、いくつかガイドラインが出来ていて、それがどの段階で改定するか、領域によって色々違い、その改訂の時期が来た時に研究班が消滅しているような場合には、学会がそれを抱えてくれる支えて継続してくれるかどうかについて、もしそうしていただくと安心できる。」

越永理事長「今の段階でお約束はできないが、小児外科の領域の必要な診療ガイドラインというものは学会がバックアップする、ないしは学会が主体となって策定していくべきという考えです。」

5. 専門医制度委員会報告

専門医制度両委員会委員長より以下の報告があり、承認された。

(1) 施設認定委員会

米田光宏委員長より以下の報告があった。

- 1) 委員会開催状況の報告
- 2) 施設認定状況の報告

(2) 専門医認定委員会

小野 滋委員長より以下の報告があった。

- 1) 委員会開催状況の報告
- 2) 専門医・指導医認定状況の報告
- 3) 専門医筆記試験合格状況報告

(3) 合同委員会（施設認定委員会および専門医認定委員会）

- 1) 委員会開催状況の報告
- 2) 新専門医制度に関する対応について検討

[質疑応答]

田口智章評議員「専門医の申請それから指導医の申請について、国内で十分な症例が経験できないという場合に、開発途上国で指導医の指導の下に手術を執刀したと、NCDでは登録ができないという状況ですが、将来的にそういった症例も、例えば新生児の症例とか、指導医の場合は胆道閉鎖とかありますけれども、なかなか症例数が少なくカウントできないような症例をカウントできるような方向性というのは検討していただいておりますでしょうか。」

越永理事長「現在NCD以外の症例について、指導医の場合はカウントできます。しかし、専門医については専門医機構を通して認定しているため、現在の所はNCD登録症例でないと難しいというのが現状です。ただそういうご意見は心臓血管外科の方からも出ておりまして今後検討されるかもしれません。学会としてはまだ何ともお答えできないという状況ですが、NCDの症例を専門医申請に使用するという事は、外科学会としてもサブスペシャリティ領域としても枠が決まっているので、現在の所はNCD以外の症例は専門医の新規並びに更新には使えないのが現実です。」

6. 2018（平成30）年度収支決算報告

浦尾正彦財務会計委員長より、平成30年度決算案について説明があった。続いて仁尾正記監事より、4月25日に行われた監査の結果、決算案が適正であったとの報告があり、決算案が承認された。

7. 2019（令和元）年度収支予算案

浦尾正彦財務会計委員長より、令和元年度予算案について説明された。

8. 役員選任の件

議長より、次期理事の選出を行うとの宣言があり、定められた期日までに届出のあった立候補者は、以下の4名であったとの報告があった。立候補者が定数の4名のため無投票で選出される、との宣言がなされた。

1) 次期理事の選任

候補者名（50音順）

新任立候補者

浮山越史（杏林大学小児外科）

大植孝治（兵庫医科大学小児外科）

田中 潔（北里大学小児外科）

増本幸二（筑波大学小児外科）

重任候補者

臼井規朗（大阪母子医療センター小児外科）

金森 豊（国立成育医療研究センター外科）

田尻達郎（京都府立医科大学小児外科）

野田卓男（岡山大学小児外科）

以上4名の新任立候補者および4名の重任候補者があった旨、議長から報告があり、続いて各立候補者から所信演説があった。

2) 次期監事候補者の選任

立候補者名 (50音順)

窪田正幸 (小倉南メディカルケア病院)

八木 實 (久留米大学小児外科)

以上2名の立候補者があった旨議長から報告があった。

続いて、定款第12条により、立候補者が3名以内の場合は選挙が行われなため、立候補者2名がそのまま監事候補者となると宣言された。

3) 次期会長の選任

議長より、山高篤行現副会長が次期会長に就任することが宣言された。

4) 次期副会長の選任

議長より、次期副会長の選出を行うとの宣言があり、定められた期日までに届出のあった立候補者は、以下の1名であったとの報告があった。

立候補者名：黒田達夫 (慶應義塾大学小児外科)

議長より、立候補者が1名のため無投票で黒田達夫評議員が次期副会長に選出される、との宣言がなされた。なお議長より、次期副会長は次々期会長となるべき役職であることが申し添えられた。

以上により、令和元年度役員として以下が選出された。

会長	山高篤行
次期会長	黒田達夫
理事	田尻達郎
理事	増本幸二
理事	白井規朗
理事	金森 豊
理事	野田卓男
理事	浮山越史
理事	大植孝治
理事	田中 潔
監事	窪田正幸
監事	八木 實

9. 次期総会開催時期、及び開催地決定の件

山高篤行次期会長より挨拶があった。また、以下につき報告があり、承認された。

第57回日本小児外科学会学術集会

開催時期：2019年5月21日(木)から5月23日(土)

開催地：都市センターホテル

10. その他

(1) 黒田達夫次々期会長より挨拶があった。

(2) 越永理事長より、新名誉会員の猪股裕紀洋先生、岩中 督先生、上野 滋先生、新特別会員の飯田 則利先生、八木 誠先生に会員証が贈呈され、全員より挨拶があった。

議長より、以上で予定されていた議題の審議がすべて終了した旨の宣言があった。

最後に、八木会長より挨拶があり、続いて閉会宣言が行われた。

(閉会時刻：17時30分)

以上

理 事 長 _____

議 長 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____